

平成 13 年度（2001 年度）事業計画書

当協議会は発足後 11 年が経過し、21 世紀の到来とともに新たな局面を迎えています。そこで、2001 年度はこれまでの活動実績をふまえつつ、時代の変化に対応した新しい発想による事業展開をはかるように努めてまいります。

また、本年度は大学や海外機関との連携を強化し、メセナ活動に関する理論的、実証的な研究を実施することにより、21 世紀にふさわしいメセナ活動のあり方を探求していきます。

一方、経済情勢は一向に好転を見せず、本年度も協議会の財政は厳しい運営を余儀なくされるものと予測されることから、ひきつづき経費の節減に努めるとともに、効率、効果をさらに重視して事業の推進をはかってまいります。

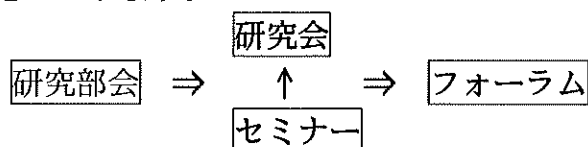
I 事業計画

1. 啓発・普及事業（3,786 千円）

1.1 セミナー、研究会、フォーラム（1,540 千円）

本年度は研究活動のステップアップをめざし、次の活動に取り組めます。

- (1) 会員を対象とした「メセナ・セミナー」を年 4 回程度開催するとともに、セミナーで提起された諸問題等をテーマに取りあげた「研究会」を開催し、会員間の活発な意見交換を行います。
- (2) 上記のセミナーあるいは研究会を総合して、より掘り下げた討議を行う合宿形式の「フォーラム」を今後年 1 回開催することとします。
- (3) なお、これらの開催にあたっては、後述（3.2 項）の研究部会活動との連動をはかります。



※2001 年度開催計画

区分	開催時期	対象	備考
セミナー	4 月・6 月・11 月・2 月	会員限定	
研究会	5 月・7 月・12 月・3 月	会員 30 名程度	
フォーラム	9 月 21 日(金)・22 日(土)	会員・非会員 50 名程度	1 泊 2 日 会場：湘南国際村

1.2 地域メセナ組織との交流（550 千円）

本年度も全国メセナ・ネットワーク(加盟 16 団体)を中心に地域組織との交流を通じて、地方におけるメセナ活動の振興をはかります。なお、本年度の全国

メセナネットワーク会議は、次のとおり開催される予定です。

開催時期：2001年9月7日(金)・8日(土) / 会場：横浜市

2. 情報集配・仲介事業 (26,468 千円)

2.1 情報紙『メセナ note』の発行 (8,270 千円)

ひきつづき年6回(奇数月)にニューズレター『メセナ note』を発行し、会員とのコミュニケーション強化、協議会活動のPRに努めます。

なお、本年度は後述(3.1項)のように『メセナ白書』の改変を計画していますが、本紙には「メセナ活動実態調査」の報告書としての役割をもたせ、年1回、その特集ページを設けることとします。

2.2 コンピュータシステムの活用 (5,320 千円)

(1)『メセナ白書』の改変計画の一環として、本年度から「企業別メセナ活動一覧」をデータベース化し、インターネット上で誰でも、いつでも、無料で検索できるようにシステムの構築をはかります。(2001年11月稼働予定)。

なお、今後は、順次「協議会の蔵書目録」、「企業財団活動一覧」などの関連情報をデータベース化してまいります。

(2)2000年4月から協議会ホームページの刷新と充実をはかったことにより、このところアクセス件数は大幅に増加しています。(月平均15,000件)

そこで、本年度もより多くの人々に協議会活動を知っていただけるよう、さらに内容の充実に努めます。

2.3 出版 (1,800 千円)

10周年記念事業として前年度にオン・デマンド方式で出版した『なぜ、企業はメセナをするのか?』の拡販にひきつづき努めます。

2.4 メセナ・コーディネート事業 (4,150 千円)

本年度は、従来からの「トヨタ アートマネジメント講座」(年間7回)に加えて「アサヒビール現代美術展」(年1回)などの企画運営業務を受託します。

3. 調査・研究事業 (11,529 千円)

3.1 『メセナ白書』の改変 (5,100 千円)

(1)調査事業は協議会発足以来、『メセナ白書』を柱に推進してきましたが、2000年度で通算10冊を刊行した節目を機に、次のねらいのもとに事業全体の抜本的な改変をはかります。

- ①「企業メセナ実態調査」はわが国唯一の貴重な統計資料であり、協議会として今後も調査部会の協力を得て毎年継続実施していくが、調査結果の公表には多角的な手段を用い、より多くの人々の目に触れるようにする。
- ②これまで『白書』の出版業務に調査事業の大半の予算と労力を割いてきたが、この機会に他の調査業務も積極的に行えるようにし、調査事業全体のレベルアップをはかる。
- ③今回の改変により、協議会活動の新たな展開を社会に印象づけ、企業メセナのいっそうの啓発、普及をはかる。

(2)改変のポイントは、次のとおりです。

- ①毎年実施する「企業メセナ実態調査」の結果は、『メセナ note』やホームページ上において公表していく。
- ②従来『白書』に掲載していた「企業別メセナ活動一覧」はデータベース化し、オンラインで誰でも、いつでも無料で検索、閲覧できるようにする。
- ③「企業メセナ実態調査」の2年分のデータから傾向を分析し、その結果を具体的な活動事例とともに紹介した単行本『新・メセナ白書』を隔年1回、刊行していく。
- ④従来『白書』の特集記事として掲載していた「テーマ調査」(例:「アーティストからみたメセナ」、「市民からみたメセナ」など)は本体から切り離して企画編集し、隔年1回、前記③項の『新・メセナ白書』と組み合わせたシリーズ図書として刊行していく。これにより、テーマ調査のデータが長期間、より多くの人々に活用されることを期待する。
なお、2001年度はデータベースのシステム構築の準備作業期間にあて、単行本シリーズの刊行は2002年度から開始する。

□改変後の発信計画

従来の『白書』 掲載内容	改変要領	2001 年度	2002 年度	2003 年度	2004 年度	2005 年度
1.「企業メセナ実態調査」 ⇒	『メセナ note』、ホームページで結果を公開	○	○	○	○	○
2.「企業別メセナ活動一覧」 ⇒	データベースで公開	○ 新設	○ (更新)	○ (更新)	○ (更新)	○ (更新)
3.特集 「テーマ調査」 ⇒	企業メセナ実態調査(2年分)の分析結果を紹介する『新・白書』とともに単行本としてシリーズ刊行		◎ 新白書	○ テーマ調査	◎ 新白書	○ テーマ調査

[2001 年度調査部会]

岡部修二氏(トヨタ自動車) ※部会長
市川哲夫氏(第一生命) 河辺尚之氏(富士ゼロックス)
土田芳孝氏(朝日新聞社) 中島康夫氏(電通)

3.2 研究活動 (460 千円)

本年度は、研究部会の協力を得て、啓発普及事業との連動をはかりながら、次の活動を推進します。

- ①これからの企業メセナをはじめ芸術支援のあり方に関する「協議会提言」の策定作業を継続。(2001 年秋に発表予定)
- ②「セミナー」等において提起されたメセナをとりまく諸問題について、部会および「研究会」において掘り下げた討論を行った上で、年 1 回開催予定の「フォーラム」の内容に反映させる。
- ③大学及び海外機関との連携を強化し、メセナ活動に関する理論的、実証的な研究を推進する。

[2001 年度研究部会]

加藤種男氏(アサヒビール) ※部会長
小野みゆき氏(日立製作所) 尾崎宣之氏(ワコール)
島田京子氏(日産自動車) 佐藤正明氏(ソニー)
森 光平氏(資生堂) 横尾浩輝氏(安田火災)

4. 顕彰事業 (15,415 千円)

4.1 メセナ大賞 (10,000 千円)

本年度も「メセナ大賞 2001」を大賞部会の協力を得て実施します。

今回は、企業あるいは団体の「応募(自薦)」とともに、第三者による「推薦」をより積極的に呼びかけ、とくに地域における隠れたメセナ活動の掘り起こしをはかります。

なお、今回より、本賞とは別に、『メセナ note 読者賞』を設け、同紙の読者によって受賞企業 8 社の中から、とくに好ましいと思われるメセナ活動を選んでいただくことにします。これにより、本事業に対する一般の関心を高めるとともに、『メセナ note』購読の促進をはかります。

- 推薦締め切り 5 月 10 日(木)
- 応募締め切り 5 月 31 日(木)
- 審査委員会 9 月 27 日(木)
- 贈呈式 12 月 6 日(木) 会場：東京青山・スパイラルホール

[2000～2003 年度審査委員] ※印は新任

池田逸子氏(音楽評論家)
 河合隼雄氏(総合研究大学院大学教授、国際日本文化研究センター所長)
 ※富永壮彦氏(音楽評論家) 中沢けい氏(作家)
 ピーター・バラカン氏(ブロードキャスター)
 平田オリザ氏(劇作家・演出家) 福田美蘭氏(画家)
 本江邦夫氏(多摩美術大学教授)
 福原義春理事長

[2001 年度大賞部会]

加藤恒夫氏(大日本印刷) ※部会長 石綿祐子氏(社会工学研究所)
 大森一正氏(日本生命) 西田克彦氏(日本電気)
 西野正浩氏(資生堂) 大和 滋氏(芸団協)
 横尾 優氏(鹿島建設)

5. 国際交流事業 (2,242 千円)

本年度も各国のメセナ組織と日常の情報交流を行っていくほか、次の行事への参加を検討します。

□「メセナ国際ネットワーク会議」

各国のメセナ組織の事務局関係者が集まり、情報交換を行う定例の国際会議。

- 開催時期 2001 年 10 月 16 日(火)～18 日(木)
- 開催地 南アフリカ・ヨハネスブルグ

6. 助成事業(認定業務 5,000 千円、寄付金 167,530 千円)

1999 年度以降、当協議会の助成認定制度へ芸術団体からの申請が急増しており、また本制度を活用しての寄付件数が増加するとともに、寄付金額の小口化がますます顕著になってきています。

これにともない、これらの事務処理に要する業務量や経費も増大しつつあり、このような状況変化への対応策を検討します。

年 度	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000
申請件数	103	92	125	121	121	172	178
認定件数	83	80	109	115	111	155	(165)
寄付件数	159	430	661	769	697	752	(850)
金額(万円)	19,705	31,102	55,590	86,555	44,281	51,566	(50,000)

()内は見込み

II 収支予算計画

1. 一般会計

収入の部では、2001年度も経済情勢が厳しいものと予測し、会費収入は前年度予算を400万円下回る1億1,305万円を設定し、事業収入、基本財産収入、雑収入のほかに退職金支払のための預金取崩収入を含めた当期収入合計は、1億3,425万円とします。

一方、支出の部では、事業費は前年度予算を237万円下回る7,180万円、管理費は退職金支払等により前年度予算を646万円上回る4,904万円で計画し、これらに特定預金支出、固定資産取得費、予備費を含めた当期の支出合計は1億3,404万円、当期収支差額は21万円を見込みます。

また、前年度の繰越収支差額は2,800万円を見込み、次年度への収支繰越差額は28,21万円とします。

2. 特別会計（助成寄付金）

本年度の助成寄付金は、従来同様に一般会計の事業費予算(7,180万円)との比率が「3：7」となる1億6,753万円を予算として設定します。

以上